

例題 1

妊産婦のメンタルヘルスへの対応に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. DVや経済的困窮などの心理社会的ハイリスクがありながらも支援を希望しない妊産婦に対しては、本人が支援を求めてくるのを待って対応する。
2. 産後うつ病の好発時期は産後3～4か月なので、その時期の乳児健診時にスクリーニングツールを活用して早期発見に努める。
3. エジンバラ産後うつ病質問票で9点未満の母親については、生活状況や心理状態の把握に努めるとともに、産後うつの可能性が高いので、精神科医の受診を勧める。
4. 初回相談で自殺をほのめかす発言をする妊産婦には、具体的な助言はせず、「気持ちはよく分かりますが、頑張ることがあなたのためになります。」と励ます。
5. 望まない妊娠で出産をした母親については、本人の同意を得て、子育て世代包括支援センターや市町村の母子保健課などに情報提供を行い、産後ケアの支援ができるようにする。

【正答：5】

**例題 2**

因果関係に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. インフルエンザウイルスの曝露は、インフルエンザ発症の必要条件である。
- イ. 飲酒は、アルコール依存症発症の十分条件である。
- ウ. 結核菌の曝露は、肺結核発症の必要十分条件である。
- エ. 喫煙は、肺がん発症の必要条件でも十分条件でもない。

- 1. ア, イ
- 2. ア, ウ
- 3. ア, エ
- 4. イ, ウ
- 5. イ, エ

**【正答：3】**

**例題3**

「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 認知症の人の状態は、周囲の人々やケアの状態を反映する鏡であるとされることから、認知症の人を支える側の視点に立ち、介護者主体の医療・介護等を徹底する。
2. 認知症の人がなじみの暮らし方を継続できるよう、発症予防、発症初期、急性増悪時、中期、人生の最終段階という認知症の容態の変化にかかわらず、常に自宅において医療や介護を提供することを目指す。
3. 小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催したり、大学生に対して認知症介護指導者養成研修を行ったりすることで、児童・学生の認知症への理解を促進する。
4. 「認知症ケアパス」は、認知症の人が自ら作成する医療・介護サービスの計画と定義されるが、個々の認知症の人の意思を尊重した認知症ケアパスが実現できるようサービスの多様化を図る。
5. 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

**【正答：5】**